

手毬 両手の掌で丸い球を撫でさする真似をして、女の子の毬突きの身振り。

手まね (イ) 指頭を左にさした右手の人差指、指頭を右にさした左手の人差指、この両指を平行にし、糸巻するように上下に互に上下に廻わす(ロ) 人差指で表わす(ハ)の要領で五指を開いたままの両手で互に上下に廻わす。

寺 左手で拝み、右手人差指で木魚或は鉦をたたき真似をして——家。

照らす 掌を前向けた手の五指を集め合わせて、前方へ突出しながら五指をぱつと開く。(射光)

「照らされる」の受身にするには、掌を内側にした手の五指を集め合わせて自分に向けて、ぱつと五指を開く。

テレビ 掌を前方に向け五指を屈めた両手(テレビの二つのダイヤルを持った手の姿態) 右手は右へ左手は左へとダイヤルを廻す

身振り。

田圃 「田舎」の手まね。

天気 (イ) 晴—雨—曇—いろいろ。

(ロ) 「天気がよい」の場合は「晴」の手まね。また、「雨」なら「雨」「曇」なら「曇」で表わせばよい。

電気 「稲光」と同じ手まねで表わす。

天狗 「自慢」と同じ手まね。

天才 (イ) 生れる——「緒人<sup>智恵</sup>達人<sup>この</sup>」の「一緒」の手まねは、生れたままの意味。即ち生れながらのこと。(ロ) 天—貰う<sup>智恵</sup>達人<sup>智恵</sup>

天災 地震—洪水—風—恐しい—いろいろ

電車 (イ) 掌を下に向けた左手の指頭を右にさした人差指と中指を電線として、その電線に二本の電車のポールを這べらせるように、掌を左側にした右手の指頭を上にした人差指と中指の指頭を左手二指の下につけ右へつたわらせて行く。(ロ) 両手の人差指と中

指の二指の指頭を互に山形につけ、下に両手の親指の指頭を逆さ山形につけて一つの菱形をつくる。即ちパンタグラフの形、そのまま前へ移行させて行く。

電信 電報 上向けた左手の掌の上を、電信機のキーを打つように右手の人差指と中指の指頭で交互のたたく。

伝染 病氣——ひろがる（掌を上向けた両手を前から左右に振って行く）

転宅 「家」を稍々前右寄りの位置で表わし、その「家」を左方へそのまま移す。

電灯 掌を下に向け五指を集め合せた左手の甲の上の皮を右手五指でつまんでから、下の左手五指をバツと開く。

転覆 五指の指頭を前方直角にさし掌を左側にした右手を前へまっすぐに進ませて途中で掌を上向に寝かせる。

転落 墮落——落ちぶれる。

展覧会 掌を上向け五指の指頭を前方にし

た両手を前で左右に並らべてから左右に離して行く（いろいろの物を展覧すること）。次に「探す」と同じ要領の手まね。即ち、人差指と親指とで輪をつくったのを（他の三指は伸ばしたまま）眼の前にして、ぐるぐると左右に上下にその手を廻わす。眼を見開いて見て行くこと。

電話 右手拳を右耳もとでぐるぐる廻わし、左手の拳（送話機）を口もとに持って行く。

ト

と（云う） とのこと だうそうな 五指を集め合わせた右手を右耳に向ってぱつと五指を開く。耳に入ったとのこと。

戸扉 (ハ) 引き戸。両手で戸を左へ引き